

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算

支出科目 款：教育費 項：保健体育費 目：体育振興費

事業名 特別支援学校ふれあいスポーツ大会補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

教育委員会 体育健康課 学校体育係 電話番号：058-272-1111 (内 3590)

E-mail：c17769@pref.gifu.lg.jp

1 事業費

750 千円 (前年度予算額： 750 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	750	0	0	0	0	0	0	0	750
要求額	750	0	0	0	0	0	0	0	750
決定額	750	0	0	0	0	0	0	0	750

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

特別支援学校体育連盟では、陸上競技、フライングディスク、サッカー、バスケットボール、バレーボール、卓球の6つの専門部が設置されており、運動部活動の推進を図ることによって、より多くの児童生徒が運動やスポーツに出会い、各競技種目の競技会に積極的に参加できるようにしている。

(2) 事業内容

特別支援学校におけるスポーツ活動の推進を図るため、毎年開催される特別支援学校ふれあいスポーツ事業に要する経費の一部を補助する。

(3) 県負担・補助率の考え方

- ・ 県負担・定額補助
- ・ 特別支援学校におけるスポーツ活動の補助として、設置者である県負担は妥当。

(4) 類似事業の有無

- ・ 無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	750	ふれあいスポーツ事業開催補助
合計	750	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・ 岐阜県清流の国スポーツ推進条例第11条
- ・ 清流の国ぎふスポーツ推進計画
- ・ 第3次岐阜県教育ビジョン

基本方針1 んふへの愛着をもち、世界に視野を広げ活躍する人材の育成
目標4 優れた才能や個性を伸ばす教育の推進

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

補助事業名	特別支援学校ふれあいスポーツ事業補助金
補助事業者（団体）	特別支援学校体育連盟 （理由）事業開催者であるため
補助事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本事業は、県内の特別支援学校の児童生徒が、日頃の体育スポーツ・レクリエーション活動の成果を発表するとともに、相互の親睦をはかるものである。 ・ 本事業を実施することにより、特別支援学校におけるスポーツ活動を一層推進するとともに、一人一人の障害の実態に応じて運動に親しむ資質や能力を育て、明るく豊かで活力ある生活を送ることができる。 <p>（内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の開催に係る経費を補助する。 全体種目：陸上競技、フライングディスク、サッカー、バスケットボール、卓球、バレーボール、レクリエーションスポーツの普及研究
補助率・補助単価等	<p>定額・定率・その他（例：人件費相当額）</p> <p>（内容） 750千円</p> <p>（理由）特別支援学校のスポーツ活動推進のため開催経費の一部補助が必要であり、平成22年度から同額。</p>
補助効果	特別支援学校におけるスポーツ活動を一層推進するとともに、一人一人の障害の実態に応じて運動に親しむ資質や能力を育て、明るく豊かで活力ある生活を送ることができる。
終期の設定	<p>終期 R5年度</p> <p>（理由）終期の定めがないため、事業を点検する。</p>

（事業目標）

<p>・ 終期までに何をどのような状態にしたいのか</p> <p>特別支援学校におけるスポーツ活動の振興、児童生徒の健全な発達を目指すとともに、県民の特別支援教育に対する理解と啓発を図ります。</p>
--

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (H**年度末)	目標 (R2度末)	目標 (終期)
① ふれあいスポーツ事業の参加児童生徒延人数		950人	

	H29 年度	H30 年度	R01 年度	R02 年度	R2 年度 (要求)
補助金交付実績	750千円	750千円	750千円	(予算額) 750千円	(要求額) 750千円
指標①目標	900人	950人	950人	950人	950人
指標①実績	887人	959人	900人	(推計値) 0人	(推計値) 900人
指標①達成率	98.6%	100.9%	94.7%	(推計値) 0%	(推計値) 94.7%

(前年度の成果)

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、事業自体は中止となったが、各専門部とも、感染防止対策を講じながら事業実施に向けた活動を実施した。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項
特別支援学校への就学生徒数が増加しており、事業の経費が増大することが考えられる。

(事業の評価)

・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か）
○：必要性が高い △：必要性が低い

(評価) 社会的な情勢からも特別支援教育に対する関心度は高く、開催経費のほとんどを補助金に頼る本事業開催への支援は欠かせない。
○

・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか）
○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている
△：まだ期待どおりの成果が得られていない

(評価) 日頃、経験できない環境で多くの仲間や教員と交流し、スポーツに親しむことで、障がいを持つ子どもたちが、将来、自立して活動できる力を養う場となっている。
○

・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか）
○：効率化は図られている △：向上の余地がある

(評価) 使用料を最小限に抑えるなど、経費削減の努力がされている。
○

(事業の見直し検討)

・(理由) 事業の評価を勘案し、事業継続が必要。

(終期到来時の翌年度以降の事業方針)

継続・削減・統合・廃止（理由）